

役者・スタッフ紹介



知念正文

(作・演出・振付け)
良寛
左門・修行僧



石丸有里子

子ども(かんた)・店の者
漁師・国仙和尚・秋の精
お稲・貞心尼



樋口春香

子ども(はる)・店の者
大名・修行僧・冬の精・木村
ストンプ演奏



竹内くみこ

子ども(げんた)
良寛(幼少期～青年期)
由之・ストンプ演奏



石出知

毬操演・泥棒・修行僧
村人・与太
ストンプ演奏



ユニコ

遍澄・仙桂和尚・春の精



市川絵梨

おばさん・おのぶ・修行僧
夏の精・重蔵・女中
ストンプ演奏



雨宮賢明

(音楽)
グッチ祐三とグッチーズの
ギタリスト。
NHK「ハッチポッチステー
ション」の音楽監督。
1982年から鳥獣戯画座付
作曲家となる。

照明＝佐久間秋一 音響＝かとう知恵理 制作＝劇団鳥獣戯画

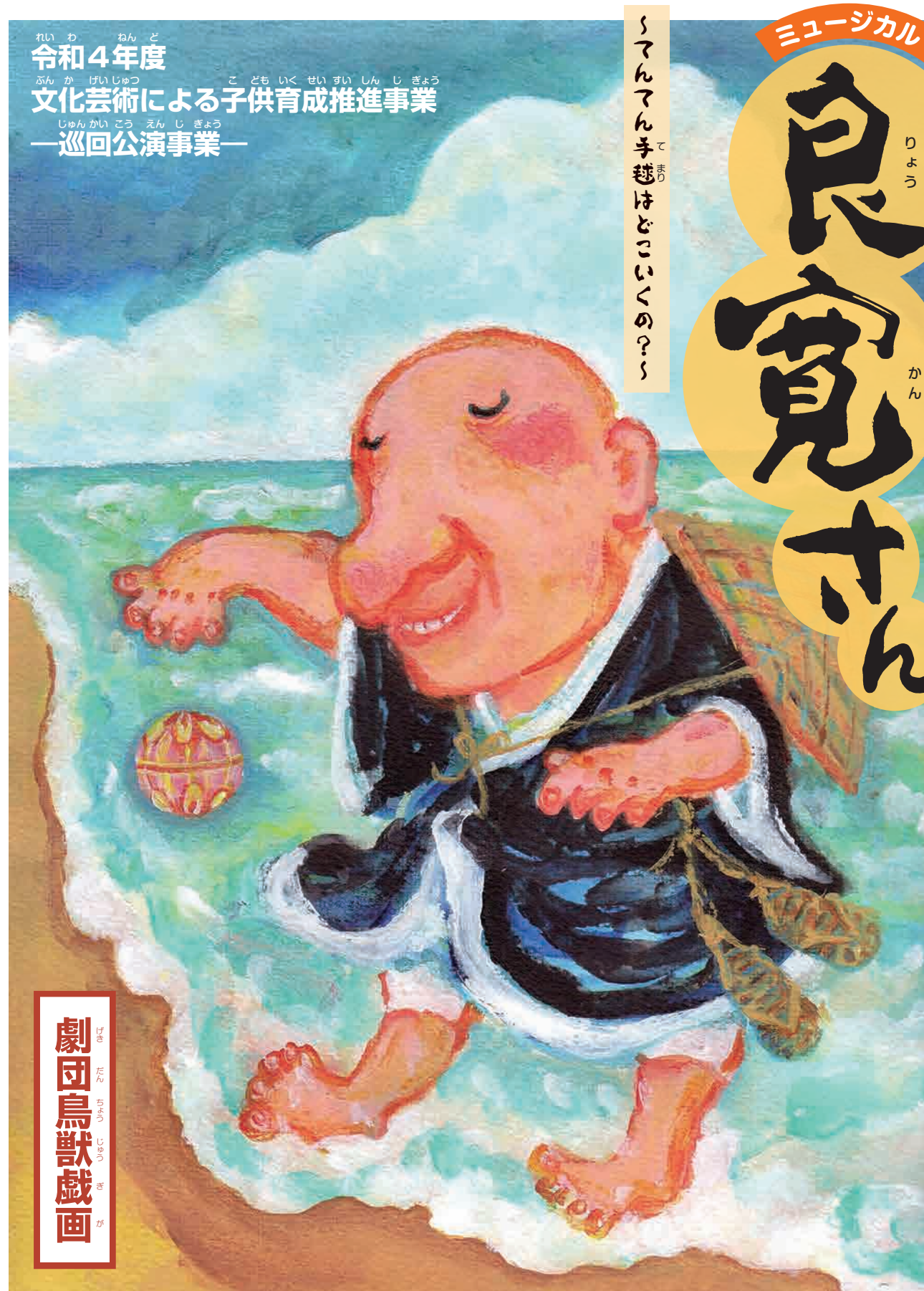
劇団鳥獣戯画って？

長編漫画「ガラスの仮面」の主人公、北島マヤを支える仲間たち「劇団一角獣」。そのモデルとなったのが劇団鳥獣戯画です。



バレエ、タップダンス、歌、三味線、マット運動、コントーション（軟体芸）、ティシュー（空中芸）、日舞、狂言、獅子舞、中国武術、殺陣などの稽古をし、たくさんの作品を創っているエンターテインメント集団。まさに鳥獣戯画絵巻のような、お茶目でパワフルなパフォーマーたちが、人形劇からコンサート、パフォーマンス劇から歌舞伎ミュージカルまで演じ活動しています。東京での定期公演の他、学校の鑑賞会公演にて演劇の楽しさを伝えるため全国を巡っています。

また、劇団のある埼玉県入間市の表現のお祭り「ドラマフェスタ in 入間」では、市民ミュージカルの指導、製作を担当。小学生体験ミュージカル事業などの活動もしています。



劇団鳥獣戯画

「文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—」
我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。
事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

ものがたり

若き僧、遍澄さんは15歳で、良寛さんに弟子入り志願。
しかし、良寛さんは、日本一の僧侶！？と言われながら、
汚い恰好、お寺を持たない、お経も読まない。
泥棒に布団をくれてやり、自分は寒さに震えている。
出世やお金儲けは、まるで頭がない…自然と共に生きていた。
子どもたちと手まりで遊び、村人たちと語り、
そして今度は、なんと40歳も年下の貞心尼さんと恋に落ちちゃった！
そこへ大地震が…
笑い生きる力があふれる舞台。ああ、良寛さんっていいなあ！！
大人が、みんな、良寛さんみたいだったら、戦争なんておきない。
良寛さんの生い立ちは、7人の役者によるスピーディーな早替わりの
ミュージカル仕立てで紹介されます。人形操演で表す村の子どもたち、
地震を表すストンプ等のパフォーマンスもお楽しみください。

演出のことば 知念正文

良寛さんは、ゆくゆくは立派な寺を持ち、
きらびやかな着物を着て、
たくさんの人たちに敬われる、と思われていました。
けれど、良寛さんは、そんな輝かしい将来を捨てて、
着の身着のまま、笠と杖だけ持って、旅に出てしまいます。
そして、その旅の中で、人間や仏教や世の中のことを
自分の肌で感じて考えを深めていきます。
数年後、山奥の古くて小さなお寺に住みつきました。
村に降りていって、子どもたちと一日中手まり遊びをしたり、
村の人たちとお話をして楽しんでいました。
そんな自由に自然と共に生きた良寛さんの言葉や、うたは、
いまでも人の心を豊かにし、いろいろな発見をさせてくれます。
こんなことも言っています。

「富める人ほど貧しい」

良寛さんのように生きるのには難しいかもしれないけれど、
人はそれぞれの生き方を、勇氣と想像力を持って、
見つけたり、作ったり出来るのではないのでしょうか。

ミュージカル

良寛さん

作・演出・振付け
知念正文
音楽
雨宮賢明

〜まんまん手越はどいへん？〜



劇中歌「修行、修行、また修行」

修行 修行 修行 また修行
終日修行 年中修行 諸行無常
修行学業 生者必滅 難行苦行

2、5、7、10の日「托鉢」の日
雨の日 風の日 雪の中
ところ構わず ところ嫌わず
「ホオー、ホオー、ホオー」と 乞食行

※ 朝は3時に飛び起きて
布団は巻いて 押し入れに
用便着衣は 10分で
洗面うがい 柄杓で3杯

4と9の日「剃髪」の日
お湯で濡らして 剃り合って
寺の掃除 わが身も掃除
「いいゆだな あははーん」

※ 暗い本堂 朝のお勤め
「般若心経」 などなどなどなど
禅堂に移動 またもや読経
無事を祈って 五体投地

9時になったら 就寝時間
素早く衣を 脱いで畳んで
かしわ布団 引き出して
もぐりこんだと 思ったら

※くりかえし

朝食前には みつつのお経
腹がなるなり 円通寺
ようやくありつく 定番メニュー
薄いお粥と 梅干したくあん

修行 修行 修行 また修行
修行 修行 修行 また修行

「良寛の四季」

かぐはしき 桜の花の空に散る
春のゆふべは 暮れずもあらなむ

ひさかたの 雨の晴れ間にい出てみれば
青みわたりぬ 四方よもの山々

秋山を わが越え来ればたまほこの
道も照るまで もみじしにけり

あわ雪の 中にたちたる三千大千世界
またその中に あわ雪ぞ降る

